



# サンビオティック農業で大豊作！

## ごぼう（牛蒡） 栽培基準



### ◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
3～4月	土づくり	スラグ肥料、または有機石灰(苦土入り)	100～200kg	土壌混和	あらかじめ土壌分析に基づきpHを矯正します。スラグ肥料や有機石灰でpHを矯正し、最適pH6.5～7.0に合わせます。
		五穀堆肥	50袋	土壌混和	植物性主体の良質な堆肥2～3トン、なければ五穀堆肥50袋/10aを使用します。畜産堆肥であれば、牛糞堆肥や馬糞堆肥なら1～2トン、鶏糞堆肥や豚糞堆肥なら500kg程度使用します。
		菌力アップ	5リットル	散布(灌水)	堆肥の上に菌力アップ5Lを適宜希釈して散布し、全体に混和します。1カ月程度寝かせます。フザリウムなどの糸状菌妨害多発園では、放線菌を増やすため「かに様」や「かにキング～」の施用もお勧めします。2～3度耕転し、作土深耕に努めます。
	元肥	有機百倍、又はマッスルモンスター鈴成	6～7袋 8～10袋	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和する。マグネシウムは必要に応じて水酸化マグネシウムを施用します。pH6.5以上の土壌では、硫酸マグネシウムを使用します。地力がある場合は、有機百倍を適宜減らします。
	土壌消毒	菌力アップ	10リットル	散布(灌水)	土壌消毒でゼロになった状態から、速やかに有用微生物を増やすことが最も大切です。土壌消毒後に、菌力アップ10リットルを畑に満遍なく散布できる水量(適宜)で希釈し、散布、灌水します。
4～5月	播種	菌力アップ	5リットル	灌水 7日おきに2～3回	播種後、1cm程度もみ殻を敷き、保湿と有機物補給を行います。発芽し始めたら、週1回程度のペースで菌力アップを灌水し、発根と初期生育を促進します。希釈倍率は、50～100倍希釈で大丈夫です。除草剤を散布する場合は、前後1週間を開けて菌力アップを使用します。
6～7月	追肥	有機百倍 鈴成 硫酸カリ	2袋×2回 1袋×2回 6kg×2回	株元または、通路に施用して培土する	追肥は2回に分け、本葉3～4枚の時(1本立ち)、本葉8～9枚の時、中耕、土寄せと一緒に。梅雨明け以降特に乾燥し、地温が高くなりやすいので、さらに敷きわらをしっかりと行い、乾燥と高温を避ける。
8月～ 根茎肥 大期、 収穫前	収量アップ	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	灌水(水量適宜) 3～4回	さらに収量を伸ばしたい方は、実施する。糖力アップにより草勢回復、収量増加、品質アップが期待できる。
	土壌病害の 予防・対応	菌力アップ 純正木酢液	10リットル 2リットル	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	立枯病や根腐病、萎凋病、黒アザ症、黒斑病、センチュウ害は、必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ、純正木酢液で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。
	品質向上、 貯蔵性向上、 病害虫の 対応	本格にがり 純正木酢液 海王	500倍希釈 500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 3～4回	にがり・木酢は細胞壁や繊維を強化し、海王は光合成を向上させ、耐病性や根茎肥大を高めます。収穫前は、良品生産のため、やや乾燥気味に管理するので、葉面散布で施用する。
水害・湿 害発生 時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	灌水 灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌力アップ10L(50倍希釈)で灌水する。3日後、再度菌力アップ10L(50倍希釈)を灌水する。

※秋冬収穫の露地栽培体系のモデルです。地域、作型によって、時期が異なりますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。